

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語 178人	社会 178人	数学 179人
	理科 178人	英語 180人	

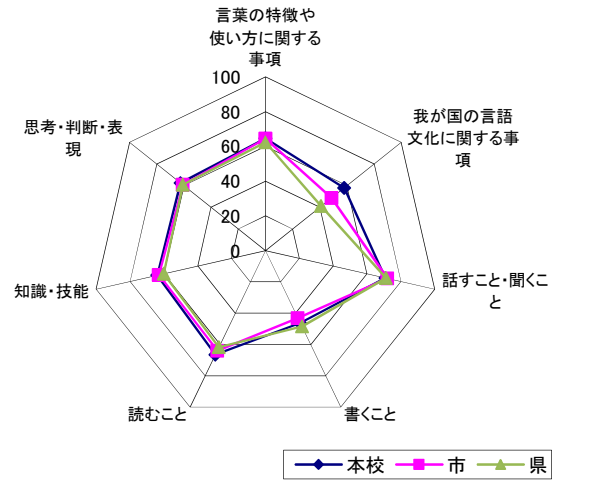
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	64.6	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	57.9	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	70.8	72.1	71.2
	書くこと	46.2	43.1	48.5
	読むこと	66.5	63.9	61.8
観点	知識・技能	63.9	62.9	60.1
	思考・判断・表現	62.5	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

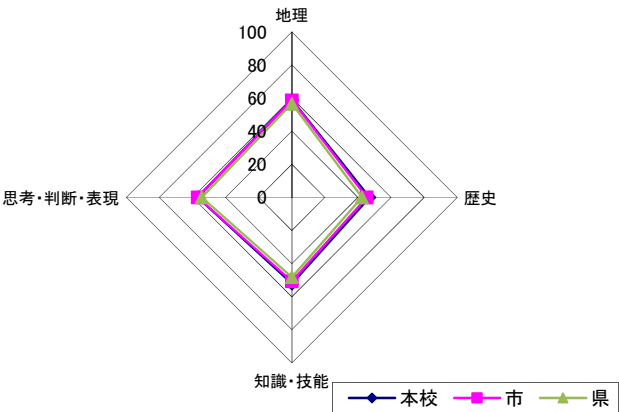
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○正答率は市の平均を0.1ポイント、県の平均を2.3ポイント上回った。 ●漢字に関する設問の6問中で、県の平均を4問、市の平均を2問、正答率が上回った。	・漢字に関しては、読みも書きも正答率が低い漢字があった。漢字テストは定期的に実施しているが、一度だけでなく繰り返し確認を行い、知識の定着を図っていききたい。また、敬語と文節の問題に関しては、市や県の平均を大きく上回った。文法事項は苦手な生徒も多いため、今後も授業内で適宜既習事項を復習しながら授業を展開していききたい。
我が国の言語文化に関する事項	○正答率は市の平均を9.2ポイント、県の平均を16.8ポイント上回った。 ●市、県との比較では上回っているが、正答率が6割に満たない。	・歴史的仮名遣いについては概ね理解しており、市や県の平均を大きく上回ることができた。だが、正答率は6割を切っているため、さらに理解を深めていきたい。古文に触れる機会が少ないため、各学年で学習する古典文学の中で再度学習の機会を設ける。中学校における古典文学の学習では、文章を読めることが大切なことだということを念頭に置き、知的好奇心が高まるような指導の工夫をする。
話すこと・聞くこと	●正答率は市の平均を1.3ポイント、県の平均を0.4ポイント下回った。 ○話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる問題に関しては、市や県の平均を上回った。	・今後の学習では、①話題や展開を捉えながら話し合う力、②互いの発言を結び付けて考えをまとめる力を身に付けさせたい。話し合いの中で、お互いの意見を集約し、グループとしての結論を出す機会などを意識的に設けていく。
書くこと	○正答率は市の平均を3.1ポイント上回った。すべての設問において、平均を上回っている。 ●県の平均を2.3ポイント下回った。	・資料を読み取り、そこから指定された段落構成で、自分の考えを明確にして表現することが全体的に不十分であることが分かる。自分で選択して書くことについては表現できるが、条件が限定されたり、内容に合うように表現したりすることが難しい現状である。単元の終末などに、条件作文などの限定された条件下で意見文を書く活動を授業に取り入れて指導する。
読むこと	○正答率は市の平均を2.6ポイント、県の平均を4.7ポイント上回った。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題は、市の平均を下回った。	・文学的文章において、場面の展開や場面と描写などを結び付けて内容を解釈したり、描写を手掛かりにして考えたりする力が不十分であることがわかる。授業内でも場面分けをする中で、場面と場面の関係について考えたり、情景描写などから登場人物の心情を読み取ったりする活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	58.9	58.7	56.6
	歴史	47.0	45.4	42.4
観点	知識・技能	52.0	50.7	48.2
	思考・判断・表現	56.9	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

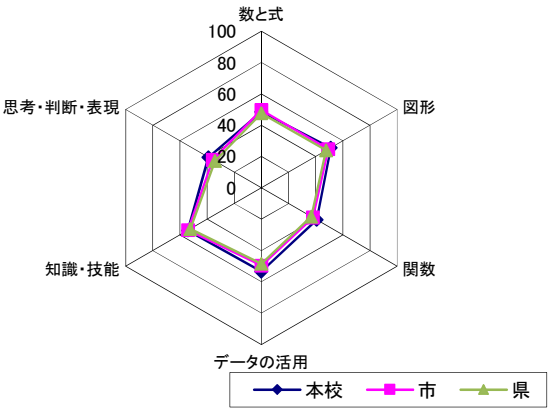
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○正答率は市を0.2ポイント、県を2.3ポイント上回った。</p> <p>○様々な図法の地図の特徴と読み取り方についてを問う問題の正答率は、市の平均を4.9ポイント、県の平均を9.3ポイント上回った。</p> <p>○東南アジアの国々に関する統計資料を読み取る問題は市の平均を3.2ポイント、県の平均を4.1ポイント上回った。</p> <p>●時差に関する問題の正答率は市の平均を5.3ポイント、県の平均を5.1ポイント下回った。</p> <p>●複数の資料から読み取った内容を関連付けて考察し、課題について記述する問題は、市の平均を1.1ポイント下回った。無回答率は市の平均を2.2ポイント上回り、県の平均を2.0ポイント上回った。</p>	<p>・AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を根気強く図っていく。</p> <p>・既習の内容を適宜授業で取り上げ、復習できるようにする。</p> <p>・授業で資料を読み取って表現する時間を設けるなど、思考・判断・表現の力を身に付ける指導の工夫をする。</p>
歴史	<p>○正答率は市の平均を1.6ポイント、県の平均を4.6ポイント上回った。</p> <p>●中世に起きた戦いを古い順に並べ替える設問で、正答率が15.7%だったことから、中世についての理解が不十分である。</p>	<p>・年表等を活用して時代を大局的にとらえ、歴史の流れをつかめるような授業を実践する。</p> <p>・様々な資料を用いて資料活用能力を高める。</p> <p>・AIDリル等を活用し、基礎基本の定着を根気強く図っていく。</p>

宇都宮市立横川中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	48.5	49.7	47.6
	図形	51.2	49.2	47.7
	関数	40.8	38.0	36.8
	データの活用	53.4	49.6	48.5
観点	知識・技能	54.2	54.0	52.5
	思考・判断・表現	39.0	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

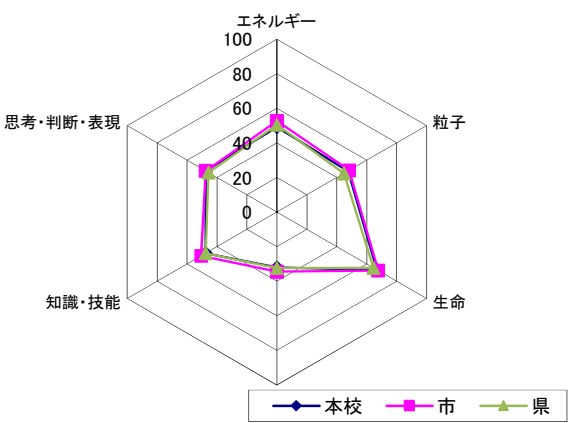
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は市を1.2ポイント下回り、県を0.9ポイント上回った。 ○与えられた不等式から、不等式が表していることを説明できるかどうかをみる問題では、市を5.8ポイント、県を7.4ポイント上回った。 ●1次式の減法ができるかどうかをみる問題では、市を7.1ポイント、県を6.3ポイント下回った。	・計算力の向上を図るために、計算を中心とする基本的な問題演習の時間を十分にとる。 ・用語のもつ意味などの定着を図るため、単元の振り返りで、数学的な用語を用いながら自分の言葉で説明するなどの工夫をする。 ・自分の考えを数学的な用語を用いて表現する場面を授業の中で設定し、記述問題に対する力を向上させる。
図形	○正答率は市を2.0ポイント、県を3.5ポイント上回った。 ○立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求めることができるかどうかをみる問題では、市を3.6ポイント、県を7.1ポイント上回った。 ●角の二等分線の性質を理解し、三角形における折り目を作図できるかどうかをみる問題では、県を0.2ポイント下回った。(市は0.8ポイント上回っている。)	・ICTや模型等を活用し、図形を自ら動かして、図形に対して多面的な見方が身に付くよう工夫をする。 ・作図の方法やその性質を理解できるよう、問題演習に繰り返し取り組ませる。
関数	○正答率は市を2.8ポイント、県を4.0ポイント上回った。 ○与えられた条件から、答えを求めることができるかどうかをみる問題では、市を6.9ポイント、県を8.5ポイント上回った。 ●与えられたグラフから、三角形の面積の差を表している選択肢を選ぶことができるかどうかをみる問題では、市を0.8ポイント、県を1.9ポイント下回った。	・日常生活と関連付けた内容の学習を取り入れ、学習内容の深い定着を図る。 ・表、式、グラフの相互の関係性を確認し、関数の概念を獲得できるようにする。
データの活用	○正答率は市を3.8ポイント、県を4.9ポイント上回った。 ○度数分布表から、ある階級の相対度数を求めることができるかどうかをみる問題では、市を10.3ポイント、県を11.6ポイント上回った。 ●ヒストグラムについて、「必ず言えること」を話している生徒を選ぶことができるかをみる問題では、市を3.2ポイント、県を3.6ポイント下回った。	・適宜、グラフやヒストグラムのデータの見方の復習に取り組み、定着を図っていく。 ・グラフやヒストグラムから読み取り、説明をする学習活動を取り入れる。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.2	52.7	50.5
	粒子	47.5	48.3	44.9
	生命	66.9	67.6	64.4
	地球	32.0	34.4	32.3
観点	知識・技能	47.6	50.7	47.6
	思考・判断・表現	47.7	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

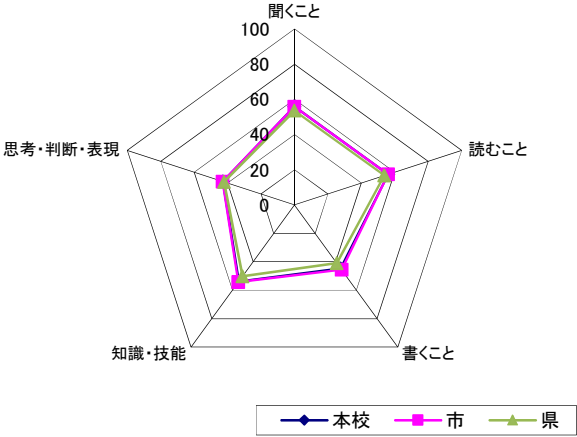
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none">●正答率は市の平均を3.5ポイント、県の平均を1.3ポイント下回った。○あてはまる言葉を答え、実験の考察を完成させる問題では、正答率が市の平均を3.2ポイント上回り、県の平均を5.4ポイント上回った。●虚像の作図問題では、正答率が市の平均を19.2ポイント下回り、県の平均を14.2ポイント下回った。さらに無回答率は、市の平均を7.5ポイント、県の平均を6.6ポイント上回った。	<ul style="list-style-type: none">・生徒実験や課題解決型の学習を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。・教科書の内容をそのまま暗記するのではなく、事象の原理・仕組みの理解を深めることに注力し、なぜそのような結果になったのか、自分の考察を論理的に表現する場面を設定していく。
粒子	<ul style="list-style-type: none">○県の平均正答率を2.6ポイント上回った。○メスシリンダーの使い方に関する問題では、市の平均を8.8ポイント、県の平均を15.2ポイント上回った。●市の平均正答率を0.8ポイント下回った。●状態変化の名称を答える問題では、市の平均を4.9ポイント、県の平均を1.3ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">・身の回りの物と関連付けた発問や例示を多用し、科学的事象を具体的にイメージできるよう授業を工夫する。・既習事項の復習に重点を置き、繰り返し問題演習に取り組むことで学習内容の定着を図る。
生命	<ul style="list-style-type: none">○県の平均正答率を2.5ポイント上回った。○両生類と爬虫類に関する知識をもとに分類する問題の正答率は、県の平均を6.2ポイント上回った。○脊椎動物の分類の観点を選ぶ問題の正答率は、県の平均を5.2ポイント上回った。●市の平均正答率を0.7ポイント下回った。●葉の特徴から植物の種類を選ぶ問題の正答率は、県の平均を3.8ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">・動物に関する全ての問題で県の平均点を上回った。知識を活用して分類できているため、今後も共通点や差異点に着目させる授業を展開していく。・植物に関する問題では、県の平均を下回る問題が多くみられた。実物を用いて観察させたり、比較させたりして、分類の観点を意識付けさせていく。
地球	<ul style="list-style-type: none">●正答率は市の平均を2.4ポイント、県の平均を0.3ポイント下回った。○地層のでき方と時間的な変化を関連付けて考える問題の正答率は、市の平均を3.9ポイント上回った。●初期微動継続時間の名称を答える問題の正答率は、市の平均を11.1ポイント下回った。	<ul style="list-style-type: none">・自然事象と関連付けて考察する力をさらに向上させるために、実験や観察において考察を丁寧に行う。・基礎的・基本的な語句の定着において課題が見られるので、既習事項の復習に重点を置き、小単元テストを繰り返し行うことで、基本的な語句の定着を目指す。

宇都宮市立横川中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	55.8	55.8	53.5
	読むこと	56.1	56.0	53.8
	書くこと	44.7	45.6	40.9
観点	知識・技能	53.9	54.3	50.2
	思考・判断・表現	42.7	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は県を2.3ポイント上回り、市とは同じであった。 ○対話の内容を聞き、情報を正確に聞き取り、適切に応答しているものを選択する問題の正答率が、県を4.1ポイント、市を3.9ポイント上回った。 ●日常的话题について、たずねられたことに対して、自分の考えを簡潔に書く設問の正答率が、23.9ポイントと低い。	・聞くこと、話すことの言語活動で、日常的かつ身近な話題を取り上げ、自分の考えや思いを伝え合う活動を行い、適切に応答する力を高める。この活動の際に、文法事項の正確性に重きを置きすぎず、生徒が本当に伝えたい「中身のある言語活動」となるよう、意識して指導していく。
読むこと	○正答率は県を2.3ポイント、市を0.1ポイント上回った。 ○日常的话题についての対話を読み、条件に合う日と時間の組み合わせを選択する問題の正答率が、県を6.8ポイント、市を5.4ポイント上回った。 ●日常的话题について書かれた英文を読み、文中の空欄に入る適切な語を書く設問の正答率が、28.3ポイントと低い。	・読むことの言語活動で、日常的かつ身近な話題に関する短文や長文を扱い、空欄の前後の内容をつかみ、その文脈から空欄に入る語が何かを推測する力を育てる。
書くこと	○正答率は県を3.8ポイント上回った。 ○与えられた語を正しく並び換え、How manyを用いた疑問文を正確に書く問題の正答率が、県を12.2ポイント、市を5.9ポイント上回った。 ●市の平均正答率を0.9ポイント下回った。 ●日常的话题に関して読んだことについて、自分の考えを整理し、説明する文章を書く設問の正答率が、5.0ポイントと低い。	・書くことの言語活動で、場面設定をしたうえで、相手に伝えたいことを整理し、まとまりのある英文を書く活動や、日常的かつ身近な話題に関する英文を読んで、自分の考えや意見を英文で書く活動を増やし、自分の考えを整理し、説明する文章を書く力を高める。

宇都宮市立横川中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している。」に対する肯定的回答の割合が本校では70%であり、県を3.9%、市を2.4%上回っている。また、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答の割合が本校では66.1%であり、県を3.9%、市を2.7%上回っている。

●「家で、学校の宿題をしている」に対する肯定的回答の割合が本校では88.9%であり、県を2.4%、市を4.5%下回っている。また、「家で、学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答の割合が本校では67.7%であり、県を3.2%、市を2.7%下回っている。

これらのことから、学習に対して自分から進んで取り組んだり、計画を立てて学習をしたりとする生徒の割合が多いものの、宿題に取り組まなかったり、授業の復習をやっていないといった生徒も見受けられる現状である。今後、学年全体で家庭学習についての重要性について再確認し、学習習慣の定着を図りたい。

○「家の人と将来のことについて話すことがある。」に対する肯定的回答の割合が本校では71.1%であり、県を5.4%、市を2.1%上回っている。また、「家の人と学習について話をしている。」に対する肯定的回答の割合が本校では86.1%であり、県を7.4%、市を2.1%上回っている。このことから、家の人が将来や学習について高い関心をもって生徒に寄り添っていることがわかる。

●「ふだん(月曜～金曜)、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか」に対して2時間以上と回答した本校の生徒の割合は53.9%で、県を2.7%、市を4.3%上回っている。さらに学習の成果に結びつくよう、家庭と協力して時間の使い方などを考える機会を設け、生徒をサポートしていくよう努力していく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
全学年で統一した自主学習の実施	・自主学習ノートの使い方や取り組む内容などについて全学年同一歩調で行っている。 ・提出されたノートの確認について担任だけでなく、副担任や学年主任も加わり、複数の目で確認するようにしている。	・「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」に対する肯定回答の割合が56.7ポイントで、県を1.0ポイント上回っている。 ・「家で学校の授業の予習をしている」に対する肯定的回答の割合が57.8ポイントで、県を16.0ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」という質問に対して「1.はい」と答えた生徒が49.4ポイントで、県の平均61.6ポイントから12.2ポイント低い。	授業における、話し合い活動の充実 「主体的・対話的で深い学び」の実現	・授業において、生徒の思考力、表現力、協調性を高められるような話し合い活動の工夫をする。 ・話し合い活動の形式を工夫(ペアワーク、ジグソー法、ワールド・カフェなど)し、生徒の意欲を高める。